

第1回不育症対策に関するプロジェクトチーム 議事概要

1. 日時

令和2年11月11日（水）午前11時00分～午前11時30分

2. 場所

官邸3階南会議室

3. 出席者

坂井内閣官房副長官、藤井内閣官房副長官補（内政担当）、大沢内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、大坪厚生労働省子ども家庭局審議官、横幕厚生労働省保険局審議官、藤原内閣府子ども・子育て本部審議官、

石井 慶子氏（お空の天使パパ&ママの会代表）、工藤 智子氏（不育症そだってねっと代表）

4. 議事概要

○石井氏から、以下のような発言があった。

- ・流死産を経験することによる悲嘆は、週数に関わらず、また成人との死別と同様に強いものがあり、不妊治療や不育症治療をされた方ではさらに強くなる。
- ・自分の気持ちや体験を語れる場を求める一方で、周囲の励ましの言葉に傷つき対人交流を避けてしまう矛盾した気持ちが、強い孤独感や孤立感を生じさせる。
- ・働く女性たちの流死産の場合、産後休暇8週では短く、また初期流産では休暇制度はなく、不安を抱えたまま職場復帰していく現状がある。
- ・不妊治療と不育症を経験したことから来る不安は、その後の育児にも影響しうる。
- ・多くの流死産では、病院での精神的支援サポートが不十分であり、児の生死によらない産婦としての身体的なケアや、より複雑な悲嘆を抱えている流死産を経験した女性へのメンタルのケアが重要である。
- ・流死産の場合は、母子保健という視点からの支援は地域によりばらつきがあり、ましてやグリーフケアはほとんど行われていない。
- ・自分で探して自助グループやSNSのつながりやカウンセリングに到達する方もいるが、かなりのエネルギーやメディアリテラシーが必要となる。体験者は安心して相談できる、不安を語れる場所を求めている。
- ・不育症や流死産体験者を対象とする自助グループは、一過性に成立しては消滅するものも多く、その支援内容も様々であるため、支援の場として課題がある。

○工藤氏から、以下のような発言があった。

- ・不育症の検査費として約10万円かかるのが現状。検査項目の一部は保険適用にな

- っているが、医療機関によっては、患者はこの10万円を丸々自費で払っている。
- ・ 不育症の妊婦は通常より頻繁に通院が必要で、妊婦健診の補助券では全く足りないのが現状。分娩に関してもハイリスクとして扱われ、大学病院等の大きい医療機関に通院するため、分娩費用も高くなる。
 - ・ 居住地により助成金制度の差がなくなることを希望する。
 - ・ 不育症の方へのアンケート結果では、半数以上の方が30歳以上で初めて流産を経験し、ここからもう一回流産を経験しないと不育症であることに気づけない実態がある。また、何度も流産をしてから初めて不育症検査を受けているのが現状。これは産婦人科医が検査を勧めてくれないことが原因ではないか。
 - ・ 国は不妊治療に対して助成金を出しているが、不育症治療には出していない。
 - ・ 患者がなかなか不育症の専門医にたどり着けない、また不育症を知らない人が多い、ということが問題である。
 - ・ 不育症患者の15%に鬱病や不安障害が現れている。
 - ・ 不育症検査・治療に対する助成金制度の導入、そして、医療従事者への情報発信・専門医の育成、そして、不育症の周知、最後に精神的サポート・相談窓口の拡充をお願いしたい。

○質疑において、以下のようなやりとりがあった。

- ・ 坂井内閣官房副長官から、産婦人科医においてグリーンケアの重要性が認知されているか、との質問に対し、石井氏から、産婦人科医がグリーンケアを実施しているという話はあまり聞いたことがない、スタッフの助産師や看護師らが産後の健診時に対応している例はあるようだが、との回答があった。
- ・ 厚生労働省から、カウンセリングの人材育成に当たり、共通の講習やマニュアルはあるか、との質問に対し、石井氏から、退院後のグリーンケアに関わる人材育成に当たり、共有の講習やマニュアルはあまりない、との回答があった。
- ・ 坂井内閣官房副長官から、不育症と不妊症の両方を患う方もいるのか、との質問に対し、工藤氏からは、アンケートによると半分ぐらいの方が不育症と不妊症両方を患っており、不妊治療によって妊娠に至った後、不育症で流死産を経験された方は特に気持ちの落差が大きい、との回答があった。
- ・ 坂井内閣官房副長官から、不育症の検査等の一部は保険適用の対象となっているが、どうして検査費用で10万円もかかるケースが生じるのか、との質問に対し、工藤氏からは、保険適用とされている検査項目でも、医療機関が支払基金へ請求しても算定されない場合があり、結果的に患者が実費を負担している例もあると聞いている、との回答があった。